

会議議事録

会議の 名称	動物実験委員会	日時	令和3年3月19日(金)15:00~15:20
		場所	治験管理室内会議室
出席者	委員長：大江田臨床研究部長 出席者：富田薬理研究室長（欠）、山本生理研究室長、田原免疫研究室長、須藤分子遺伝研究室長、梅村医療画像研究室長（欠）、笠原再生医学研究室長、関外部委員 <p style="text-align: right;">(書記)庶務係長</p>		
議 題 及 び 討 議 事 項			
<p>1. 動物実験委員会構成員について</p> <p>大江田委員長：再生医学研究室長が異動等に伴って変更になり、令和2年度の動物実験委員会から、笠原再生医学研究室長に務めて頂く。</p> <p>庶務係長：令和3年度の動物実験委員会構成員について、委員長は大江田臨床研究部長、副委員長は富田薬理研究室長、委員については、山本生理研究室長、田原免疫研究室長、須藤分子遺伝研究室長、笠原再生医学研究室長とする。また、外部委員は引き続き、関あずさ国際部長（ハムリー株式会社所属）にお願いする。</p> <p>※承認。</p> <p>2. 動物実験計画書の審議について</p> <p>【部分凝集αシヌクレインが細胞内外からもたらす神経機能異常の解明】 (申請者：診療部長 山本 兼司)</p> <p>申請者説明：パーキンソン病 (PD) やレビー小体型認知症 (DLB) の病因と推察されている部分凝集したαシヌクレインが神経細胞の興奮性やシナプス伝達に生ずる影響を細胞電気生理学的に解析し、PDやDLBの病初期に生ずる神経機能異常を明らかにする。実験方法は、ラットおよびマウスをイソフルラン麻酔下（空気をキャリアガスとして濃度2.5%で吸入）にて断頭し大脳を取り出したうえで大脳皮質急性スライス標本を作成する。このスライスにO₂/co₂混合ガスをバブルしたリンゲル液を還流させ、大脳皮質錐体細胞にパッチクランプを施行し、パッチピペットからαシヌクレインを投与したうえで神経活動やチャンネル電位を記録する。これ</p>			

らのたんぱくが神経内のどのチャンネルや受容体に機能異常をおこすかを調べるため、これらのチャンネルや受容体を修飾するさまざまな薬剤を投与が必要である。また、チャンネルに対する修飾機構はマウスとラットで異なるため、同じ実験をラットとマウス両種で施行する必要がある。

当課題は継続課題であり、引き続き承認をお願いしたい。

関外部委員：「麻醉下にて大脳を取り出したうえで」という文言を「麻醉下にて安楽死をさせ大脳を取り出したうえで」と安楽死という言葉を入れたほうが良い。また、「苦痛軽減」の項目で、薬剤名を「イソフルラン」だけでなく、「もしくは、セボフルラン」と追記した方が、整合性が取れる。

山本診療部長：指摘頂いた箇所の修正を行う。また、「安楽死の方法」の項目の「麻醉薬等の使用」にチェックが抜けていたので修正を行う。

大江田委員長：指摘点等を修正の上、再提出を行い、承認とする。

3. その他について

関外部委員よりレクチャーを受ける（別添資料）。

大江田委員長：「有用な結果を得るためには、その動物はヒトへの外挿に適しているか」と説明があったが、その判断は非常に難しいがあると思われる。このような判断は、外部の委員会で判断されるのか。

関外部委員：外部の委員会はあくまで、正否を確認するところである。今回の研究であれば、「なぜ、ラットやマウスを使うのか」と質問があった場合に、「ラットやマウスを使用することの利点」や「外挿の類似点」等、どのような理由でその動物を使用しているのか説明出来る土俵を作っておけば問題はない。

以上